

マーケットの動き (2023年1月3日～1月6日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

6日に発表された12月の米国雇用統計において、雇用者数は増加傾向にある一方、賃金上昇率は伸び鈍化を示したことからインフレのピークアウトが意識され、米国国債は買われる展開となりました。また、同日に発表された12月の米国ISM非製造業景況感指数が好不況の分かれ目とされる50を下回ったことも支援材料となりました。

ドイツ国債市場は、おおむね米国に連動した推移となりました。

投資環境見通し (2023年1月)

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）とも低下

米国： サービス価格上昇や賃金動向には注意を要するとみられますが、これまでの利上げ効果の浸透によるインフレ圧力の鈍化傾向もみられ、今後の景気減速によって賃金上昇率が鈍化する可能性も考えられます。当面は金融政策の引き締め姿勢を修正するとの見方が広がりやすく、長期金利は低下するとみえています。

欧州： ECB（欧州中央銀行）の金融引き締め姿勢を受けて2023年以降も利上げを続けるとの見方や政策金利の到達点を巡る不透明感が高まっています。しかし、景況感の停滞や高インフレによる厳しい事業環境から景気後退懸念も高まりやすく、ドイツ長期金利は小幅ながら低下するとみえています。

| | 1月6日 | 変動幅（騰落率） | | | |
|----------------------------------|--------|----------|--------|--------|--------|
| | | 前週比 | 1カ月前比 | 6カ月前比 | 1年前比 |
| 10年国債利回り（米国、%） （変動幅） | 3.56 | ▲0.31 | 0.05 | 0.65 | 1.83 |
| FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率) | 498.72 | 2.27% | ▲3.90% | ▲4.76% | ▲3.10% |

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202301_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2021年12月31日～2023年1月6日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2021年12月31日～2023年1月6日）



※2021年12月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成